

# もの言えぬ社会 NO

5/20  
朝日

## 「戦前に近づいた」「市民でいられるか」

### 「共謀罪」衆院委で採決強行

「内心の自由」を脅かすとの指摘がある「共謀罪」法案が19日、わずか30時間余りの議論で、衆院法務委員会で可決された。国会周辺では夜になっても、全国各地でも反対の音が上がった。大阪も京都など



「共謀罪」法案の衆院法務委員会通過に抗議の声を上げる人たち=19日夜、京都市、井手さゆり撮影

長年国会の傍聴を続けている東京都国立市の西川重則さん(80)は特定秘密保護法や安全保障関連法などで採決の強行を見てきた。「安倍政権は、教の論理で押し通す考え方が板についている。私は内心の自由を奪われた時代を知っている。戦前の日本に、また一歩近づいた」と憤った。国会周辺では、市民が

### 30時間堂々巡りしただけ



審議を傍聴した 江川紹子さん

「共謀罪NO」などと書かれた紙を手にシニプレヒコールを上げた。約9千人(主催者発表)が集まった。日本大学3年の中山美幸さんの心は、一般市民は共謀罪の対象外という政府の説明に疑問を抱く。「政権が法律を手にしたとき

法案の危険性を指摘してきたジャーナリスト江川紹子さん(58)は怒号が飛び交う採決をどう見たか。午後1時過ぎ、「委員外議員」として出席した日本維新の会の丸山穂高氏が「委員長、もういいでしょう」と採決を促す。江川さんは「法務委員でもない人の一言で打ち切り。乱暴」とため息をついた。

「無効だ」。採決を阻もうとする野党議員らが怒鳴りながら、委員長席に詰め寄る。そばで立ち上がった拍手する与党と維新の議員。江川さんは「委員長が法案の危険性を指摘してきたジャーナリスト江川紹子さん(58)は怒号が飛び交う採決をどう見たか。午後1時過ぎ、「委員外議員」として出席した日本維新の会の丸山穂高氏が「委員長、もういいでしょう」と採決を促す。江川さんは「法務委員でもない人の一言で打ち切り。乱暴」とため息をついた。

## 日本社会 確実に窮屈に

### 法務委で意見を述べた 小林よしのりさん



ネット中継で法務委員会を見たが、議論の場になっていない。30時間を目安に議論を切ることで自分がおかしい。法務大臣は、私の頭脳では対応

きないと言って批判されたが、明快に説明できる大臣なら議論がかみ合い、行き詰まっただろう。与党からすればあの大臣でよかった。この法案の本質について国民は、まったく理解できていないはずだ。テロ対策と、刑事法の強化がごちゃ混ぜにされている。そもそもTOC(国際組織犯罪防止)条約はテロ対策のためのものではない。自民党にも反対しそうな政治家はいるが、安倍政権では議論を尽くすことが難しく

なっているのだろう。日本から見れば、中国やロシアは言論の自由が制限された暗い社会だ。でも、多くの現地の人はそれなりに幸せに暮らしている。当事者は問題を肌で感じにくい。法案が成立すれば、日本社会の公共空間は確実に窮屈になる。創造力や活力が失われていく。「共謀罪」はリベラルが反対し、保守が賛成する構図。だが、わしはこの日本の広く、豊かな公共空間を保守したい。(聞き手・岩崎生之助)

私たちは「一般市民」でいられるのでしょうか。R大阪駅前でもあり、集まった約1000人(主催者発表)が「共謀罪廃案」と声を上げた。参加者はマイクを次々に回し、「(逮捕される)恐怖の中で、もの言えなくなる」「理解が足りないのに隙を突いて採決毛行進した。抗議活動はJ」と訴えた。